

2020.5.1 第178号 **ながの**  
**社会福祉士会** NEWS

■発行：公益社団法人長野県社会福祉士会  
 会長：萱津 公子  
 ■編集：広報編集委員会

■事務局：〒380-0836  
 長野市南県町685-2 長野県食糧会館6F  
 ■発行部数：2,400部

■TEL：026-266-0294  
 ■FAX：026-266-0339  
 ■E-mail：info@nacsww.jp  
 ■HP：http://nacsww.jp/

目次	■新型コロナウイルス感染拡大防止と社会的影響に ソーシャルワーカーとして最善を尽くそう！ …………… 1	■認定社会福祉士制度（認定社会福祉士）とは …………… 6
	■東信地区 シンポジウム …………… 2	■2019年度 基礎研修を受講して …………… 7
	■南信地区 セミナー …………… 3	■長野県社会福祉士会中期ビジョンを策定しました！ …… 8
	■中信地区 セミナー …………… 4	■リレーエッセイ～リレー形式の寄稿～ …………… 8
	■信州ぐるっと!! …………… 5	■今後の予定 …………… 8
		■編集後記 …………… 8

Nagano Association Certified Social Workers

## 新型コロナウイルス感染拡大防止と社会的影響に ソーシャルワーカーとして最善を尽くそう！

萱津 公子（公益社団法人長野県社会福祉士会 会長）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大は、世界的なパンデミックとなり、日本においても、4月7日に先行して東京、大阪など7都府県に緊急事態宣言が発令され、4月16日には、感染拡大に歯止めをかけ医療崩壊を防ぐために、大型連休中を含めた人の移動を全国一斉に抑える必要があると判断して、緊急事態宣言の対象地域が全都道府県に拡大されました。もし、必要な対策をとらなければ、今後長野県を含む全国でさらに多くの感染者や死亡者が出るという予想もされています。国や自治体からは、多くの人が集まるイベントや研修等の自粛要請が出され、不要不急の外出制限も次第に、強化されてきています。

このような状況の中で、本会は4月18日に2020年度第1回理事会をWEB会議で開催し、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態について、福祉に携わる者として生命の危険に対して緊張感を持って、自律・自覚的な対応が求められることを確認しました。

自粛要請の中、経済活動が停滞し就労や収入が減少し生活の危機に瀕している方や、各施設の休止や学校の休校により家庭での子育て・介護の負担がかかり、家庭内における子ども・障がい者・高齢者への虐待やDVの発生リスクの高まり、また正しい情報が伝わらず感染者や医療従事者への偏見や差別等、人々の生活や生命が危機や抑圧にさらされている状況が全国的に報告されています。

会員一人ひとりが、人々の生活や活動が脅かされている実態を把握しながら、ソーシャルワーカーとして「今、最善の努力として何ができるのか」。様々な制限がかかる中ではありますが、現場で創意工夫を凝らしてあきらめずに取り組んでいただきたいと思います。

また、本会として発信すべき緊急の福祉的課題については、会員の声を集め、迅速にとらえて関係機関等への提言などを検討していきます。自分と家族、支援対象者の方々の生命と安全を守るために、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

なお、常にスキルアップを目指す会員社会福祉士にとって、研修や地区学習会、委員会活動等は、会としても個人としても重要なものでありますが、本会主催のイベントは、6月13日のまるごと学会をはじめ、各種研修会や学習会等については中止や下半期への延期、会議については集まらない方法で行う等の措置をとることとしました。最新の予定は本会ホームページにおいて案内いたします。

# 「災害時支援」シンポジウム ～台風19号災害時の福祉関係者の経験に学ぶ～

2019年10月に発生した台風19号の豪雨により、東信・北信地区に甚大な被害が発生しました。さまざまな現場に関わった方の声を聞き、今後も起こりうる災害に対して私たちはどのように備えるべきかを考えました。

日時：2020年2月22日(出) 会場：佐久市立国保浅間総合病院 中央棟4階 講堂

## 台風19号災害支援と対応について

佐々木 公子氏

(佐久市中込地域包括支援センター)

台風19号により佐久市でも被害があり、災害発生前から佐久市担当課より地域包括支援センター職員に対して事務所での待機の指示が出る。民生児童委員や各福祉施設などからの電話対応や、その後も佐久市担当課や保健師などととも個別の対応を行い、被害状況や生活状況に合わせた自宅の住み替えの提案や介護保険サービスへのつなぎなどの対応を行う。平時から災害に備えた準備や訓練の重要性を痛感するとともに、職員の身を守ることも大事なことだと述べた。

## 長野大学生の災害ボランティアについて

横谷 貴大氏

(長野大学社会福祉学部4年)

横谷さん自身が川沿いのアパート1階に居住していたので10月12日は大学へ自主避難。福祉避難所の指定を受けていないのに、高齢者施設から30人ほどが大学体育館へ避難してきていた。その後も400人が避難してきた。上田市の職員は2人だけだったため、LINEで学生の応援や毛布の持参を募った。被災前からのネットワークを活かし、10月14日より上田市社会福祉協議会(以下、社協)からの依頼で活動開始。(早川さんから報告)10月23日からは県社協・長野市社協との話し合いを経て、長野市での活動も開始。(宮澤さんから報告)ニーズを引き出したいが故しつくづく聞くことで、被災者のペースを乱したり、支援者の一方的な押し付けになったり…表出された依頼を「できない」で終わらせたりしないように留意し住民ファーストの活動を行った。いつでもどこでも被災者のことを考えてしまうなど、支援する側のケアも必要と感じた。継続的なニーズ調査も行う中で、ネットワークの地域差も見えてきた。一緒に泥出しをする中で、本音を引き出す関係が構築できると気づき「ケアワークがあってこそそのソーシャルワーク」と考えるようになった。

## 災害救援ボランティアセンターの活動について

荻原 宏樹氏

(地域福祉推進課長兼上田ボランティア地域活動センター所長)

通常業務を行いながら、10月14日から災害救援ボランティアセンターを立ち上げ。ニーズ調査やボランティアの受入れ、活動先の調整を行った。10月31日まで活動を行い、その後は常設されている上田市社会福祉協議会ボランティア地域活動センターで依頼を受け付けてきた。登録されている団体や個人の方々により、泥出しや家具の運び出しなどの活動を行う中で、スコップや一輪車などの資材不足や保管場所の不足、資材運搬車両の確保などの課題が浮き彫りとなった。ボランティアの活動を意味のあるものにするために、現地確認とニーズ調査の大切さを述べた。

## 台風19号による停電時の施設サービス提供について

大森 聡氏

(特別養護老人ホーム佐久穂愛の郷)

80人の定員の施設において3日間の停電が発生する。断水はなかったものの、停電により給水ポンプが稼働しなかったため、館内に水を回せなかった。自家発電装置はあるが、定期的な給油が必要なため、スタッフが交代で給油を行う。食事はガスが使用できたため通常に近い食事の提供が行われたが、配膳は階段にて職員がバケツリレー方式で運んだ。洗濯などは被害のない同法人の施設で対応。今回福祉避難所としての要請はなかったが、もし要請があっても今回の状況では対応ができなかったのではないかと反省に対し、設備や機能の確保へ向けて始動している。一方で、スタッフの力が発揮され、ご利用者の命を守れたことが良かったと振り返る。

コメンテーター長峰 夏樹氏(長野県社会福祉協議会)による所感と、災害福祉広域支援ネットワークの紹介・活動報告 農福片付けプロジェクトのPRも行われた。農地の復旧は障がい者就労支援事業所の仕事として行える。長野市内4法人で長野市から受託、時給1,250円は国から支給された。従事者から「災害復旧に協力ができてうれしい」「普段は室内仕事。体を動かせて、やりがいもある」「普段の倍以上の工賃がもらえた」などの声が寄せられている。

コーディネーター端田篤人氏(長野大学社会福祉学部准教授)によって、視点の整理や課題提起が行われ、会場から集まった質問票への回答や意見をシンポジストへ求めた。

# 「こども食堂の今と目指すもの ～こども食堂がまちのプラットフォームに～」

講師：青木正照氏（NPOホットライン信州 事務局長）

開催日：令和2年2月16日(日)

会場：諏訪市総合福祉センター  
「湯小路いきいき元気館」

参加者：35人

現在、各地域で活動が展開されている「こども食堂」について、こども食堂の現状や課題、こども食堂が目指すものなどについて特定非営利法人NPOホットライン信州の青木正照氏をお招きしてご講演いただき、最後にグループに分かれてバズセッションを行った。



南信地区の会員のほか、松本や上田などからも参加者があり、関心の高さがうかがえた。バズセッションでは講演の感想や、今後に活かしたいことなどを話し合った。参加者からは「実際の活動がわかった」「地元のこども食堂の活動も知りたい」「さまざまな人がかかわることで多様性が広がると感じた」などの声が聞かれた。

## ～講義の概要～

2016年1月に始まった「信州こども食堂ネットワーク」は2020年2月現在、県内85か所で開催され、子ども2万人と親・大人・サポーター4万人が参加し、地域の特色ある活動が展開されています。企業や団体との協同も始まっています。

こども食堂は貧困対策のイメージが強く、偏見や理解不足により活動が拡がりにくいといった課題があります。しかし、現在の貧困問題は経済的貧困よりも心の貧困が深刻で、居場所のなさや自己肯定感の低さがさまざまな生活問題を引き起こす背景にあるといえます。

こども食堂は食を通じて他者との交流や体験から、生き抜く力を身につけることに効果があります。また、子どもと大人が参加することで、誰もが居場所と出番がある地域のたまり場にもなっています。今後は「食育」「学習」「相談」「ケア」など多様性のある課題解決の場でもある「まちのプラットフォーム」を目指しています。



## ～質疑応答～

Q. こども食堂の運営に際して、衛生面ではどのような配慮をしているのか？

A. 屋内外さまざまな場所で運営するため、調理関係に携わっているメンバーを協力員に入れている。営利目的ではないため、保健所には報告する義務はない。

Q. こども食堂の機能として、引きこもりの方の社会参加を促すための工夫は？

A. 見学や送迎などの同伴や「ポスターを描いてほしい」「椅子を出してほしい」という具体的な役割を伝えることで参加を呼びかける工夫をしている。

## 地域共生社会の実現に向けて ～ 矯正施設退所者支援から考える～

令和2年2月22日(土)、松本市松南地区公民館で「地域共生社会の実現に向けて」をテーマに、約50人の参加者とともに矯正施設の現況や退所後の支援について理解を深めました。松本少年刑務所統括矯正処遇官 吉田弘毅氏、長野県地域定着支援センターセンター長 石川貴浩氏から講義をいただき、矯正施設退所者支援についてそれぞれの立場で考える契機となりました。



### 【講義1】「障がい特性を有する受刑者の支援について考える」

講師：吉田弘毅氏（松本少年刑務所 統括矯正処遇官）

松本少年刑務所は、現在約160人の受刑者を収容している。主な業務は入所時のアセスメント、保護観察所の手続き、退所時の支援を行っている。主な収容者の傾向として、コミュニケーション能力欠如、忍耐力が乏しい、社会における成功体験の欠如、親の愛情が欠落しているなどさまざまな状況がある。矯正施設において職業訓練や指導を行い、福祉支援につなげるケースもあるが、困難を来たすケースもある。例えば家族支援が望めない、社会的に理解が得にくい犯罪、障がい重複している、障がい受容ができない、福祉支援が必要かどうかボーダーラインの場合、問題行動が頻発し、支援の受けられる状態にないなど、矯正施設だけで対応ができないことも増えてきている。

特に収容者自身が障がいを受容できないことで、福祉支援に進まない状態がある。若さゆえの障がい受容ができない、レッテルを貼られたくない。障がい者として生活すると今まで自由にやっていたことが制限される。犯罪、非行による歪んだ成功体験や居場所があるために、さらにメリットを感じない。

福祉支援の必要な収容者に対して、刑務所、少年院での処遇を通して福祉支援が受けられるように、正しい情報の引継ぎ、出所後起こりえる問題について、確実に引き継ぐ。

再犯防止の時代だからこそ、出所後地域生活へ移行するために、受け入れ先との連携を大切にしていきたい。有効な手立てとして、ちょっとした成功体験（スモールステップ）の積み重ねを通して、地域の一員として受け入れてもらえるように支援していきたい。

### 【講義2】地域生活定着支援センターにおける累犯障がい者の福祉支援

講師：石川貴浩氏（長野県地域定着支援センター長）

先に地域生活定着支援センターが設置された背景、事業の目的、事業内容、支援対象者、業務の流れをパワーポイントと資料を使って説明し、その後事例をあげて支援の実際と、そこから見えてくる支援のポイントや支援時における課題について具体的な内容の講義を受けた。支援の目的はあくまで「地域で安定して生きていくこと」であり「再犯の防止ではない」。支援のポイントは「多少のリスクを抱えても、役割の枠を超えても、過去の枠をできるだけ外し触法者ではなく一人の人間として正面から向き合うことが大切である」と話された。

会場から「講義の時間が短く感じられた。はじめて流れを知ることができて非常に勉強になった。地域共生社会を実現するために我々福祉の関係者が個々の支援の中から地域の課題をいかに考えていくかを考えるよい機会だった。」と感想が聞かれた。

## 地区総会の開催状況

### 南信地区

2月16日南信地区の総会が、諏訪市総合福祉センターで開催されました。本年度の事業報告として、諏訪、上伊那、飯伊の各ブロックから、それぞれ4回の学習会をもち活動してきたことが報告されました。その後、中期計画策定推進プロジェクトの委員より、長野県社会福祉士会中期ビジョンについて説明があり、本会の活性化への呼びかけがありました。

### 東信地区

2月22日、委任状を含め151人での開催。今年度の事業報告と次年度の事業計画について承認された。また萱津会長より高齢者虐待の声明についての提言、会策定プロジェクト委員の永井会員より中期ビジョン案の報告。最後に、岩澤支部長は「次年度の県総会とまるごと学会は東信地区が担当。地区会員の皆さんのご尽力をいただきたい」と挨拶をした。

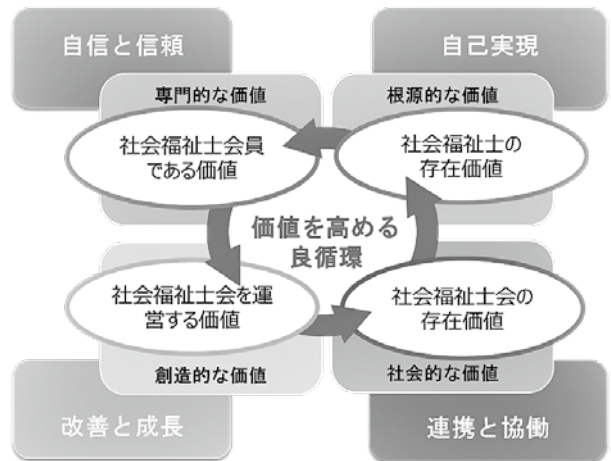
### 中信地区

2月22日、松本市松南地区公民館において中信地区総会が開催されました。田中雄一郎支部長より2019年度の活動報告と2020年度の活動計画について報告がありました。活動計画では情報共有のツールとして「一斉メール」の活用が提案されました。また中期計画策定推進プロジェクトチームの杉本博志委員長から検討経過の概要について報告がありました。

### 北信地区

2月29日地区総会を企画しましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために中止しました。

## 第6回理事会から（3月7日開催）



第6回理事会の重要課題は、2020年度の事業計画・収支予算の決議であったが、新型コロナウイルス拡散防止のために、県下4会場をスカイプで結びテレビ会議で開催した。

事業計画の審議に先立ち、中期計画策定プロジェクトから中期ビジョンの中間報告を受けて熱心な協議が行われた。

中期ビジョンにおける活動目的は、「本会が魅力的な職能団体として地域社会から認知され、会員一人ひとりが社会福祉士としての価値と役割を自負し、能動的に社会福祉士会活動を活かし、職能者としての自己実現を果たすこと」とした。理事からの意見も集約して、次回4月18日の理事会で決議することにした。

理事会は、中期ビジョンを踏まえた事業計画と前年度予算を110万円上回る総額6,650万円余の収支予算を決議した。

## 信州ぐるっと!! ～県内の特色ある福祉活動を紹介～

### 『医療・福祉・地域をつなぐ』

蒲生俊宣（上田市川西地域包括支援センター）

上田市では市内10カ所の地域包括支援センター（委託）に第2層生活支援コーディネーターが配置され、それぞれの担当地域の資源の発掘や活用に向けた取り組みを進めています。特に資格要件はありませんが、7地域の地域包括支援センターに生活支援コーディネーターとして社会福祉士を配置しています。

生活支援体制整備事業の鍵は、元気な高齢者の皆さんであると考えています。当センターでは地域で活動するさまざまな団体（自治会・住民自治組織・地区社会福祉協議会・サロン活動・B型サービスなど）への支援として、担当エリア内に拠点を置く医療福祉の専門職やボランティアの皆さんの協力のもと、『介護予防と健康づくりのためのワンコイン出前講座』を開催しています。令和元年度は延べ38カ所の活動から依頼をいただきました。地域で活動する住民の皆さんに同じ地域で活動する専門職の存在を知ってもらいつつ、専門職の皆さんにも実際の地域での活動を知ってもらう“懸け橋”となる事業として、今後も期待しています。

講座や活動の様子を、川西地域包括支援センターの公式Facebookで配信しています。興味を持っていただけた方は、ぜひ“いいね！”をしていただいた上で（←重要）ご覧ください！

# 認定社会福祉士制度（認定社会福祉士）とは

社会福祉士の資格は、国家試験に合格し、登録を行うことによって付与されます。しかし、資格の取得はあくまでも専門職で実践を行うための“スタートライン”であり、試験の合格が実践力を証明しているわけではありません。

そこで、高度な知識と卓越した技術を用いて、個別支援や他職種との連携、地域福祉の増進を行う能力を有する社会福祉士のキャリアアップを支援する仕組みとして、実践力を認定する「認定制度」を制定し、「認定社会福祉士」および「認定上級社会福祉士」の2種類を位置づけました。

## 認定社会福祉士とは

「社会福祉士及び介護福祉士法」の定義に定める相談援助を行う者であって、所属組織を中心にした分野における福祉課題に対し、倫理綱領に基づき高度な専門知識と熟練した技術を用いて個別支援、他職種連携および地域福祉の増進を行うことができる能力を有することを認められた者をいいます。

## 認定上級社会福祉士とは

「社会福祉士及び介護福祉士法」の定義に定める相談援助を行う者であって、福祉についての高度な知識と卓越した技術を用いて、倫理綱領に基づく高い倫理観をもって個別支援、連携・調整および地域福祉の増進等に関して質の高い業務を実践するとともに、人材育成において他の社会福祉士に対する指導的役割を果たし、かつ実践の科学化を行うことができる能力を有することを認められた者をいいます。

## 認定社会福祉士を取得するには

認定社会福祉士を取得するには、スーパービジョン、共通専門、分野専門の単位を10単位ずつ取得するなど、さまざまな要件を満たす必要があります。

取得するためのルートは複数設定されているので、興味がある方は認定社会福祉士登録機関または認定社会福祉士認証・認定機構のホームページをご覧ください。

## 「認定社会福祉士」

森 貴 男（鹿教湯三才山リハビリテーションいずみの居宅介護支援事業所）

私は、長野県社会福祉士会の推薦をいただき、研修受講を経て経過的スーパーバイザーとなり、認定社会福祉士取得（経過的）のため研修と課題に取り組みました。課題の1つは、実践と理論を適合し支援の根拠を言語化するもので、合格は容易ではありませんでした。

現在、認定社会福祉士を目指す3人とスーパービジョン契約を結ばせていただいています。毎年、基礎研修の講師をさせていただいていますが、基礎研修修了後にスーパービジョン10単位を取得する事は容易ではありません。各々、専門職として高みを目指し自らの実践を内省される姿に感銘を受けています。

私自身も、認定社会福祉士更新のために5年間単位取得に取り組みました。県内では、単位取得の認証研修が少なく、県外に出向いて単位を取得しなければならない現状です。私は、県外大学院の認証研修の2単位取得のため、往復6時間の道のりを通いました。研修を受講し評価を受け続けることは、専門職として「できている事」「できていない事」を自己受容し足場を固めることにつながります。

今後、県内で多くの方がスーパービジョンに取り組む土壌が整い、社会福祉士の実践力向上につながればと思い認定社会福祉士制度に向き合っています。



# 2019年度 基礎研修を受講して

基礎研修は社会福祉士として必要な基礎知識を3年間（最大6年間）かけて学び、修了すると認定社会福祉士取得のための「共通専門」の単位を得られます。また専門研修や成年後見人材養成研修を受講するためには欠かせない研修です。

## 「基礎研修Ⅰを受講して」

片 桐 大 寿（豊丘村地域包括支援センター）



### 【受講した理由】

私は、2012年に資格を取得して社会福祉士会へ入会して以降、名ばかり会員で過ごしてきました。資格取得から8年が経過する中で「ボーっと生きてんじゃねーよ！」と叱られた訳ではありませんが、一度基礎を再確認する機会が必要かな!?と思い立ち受講を申し込みました。

### 【研修の様子】

集合研修では、1班5～6人で講義やグループワークを受講し、県内各地さまざまな分野で活躍している社会福祉士の仲間と学び交流することができました。家庭学習では、自分と異なる分野で活躍する先輩社会福祉士（権利擁護・障がい者福祉分野）へのヒアリングを通して、社会福祉士の専門性と活躍の場の広さを認識しました。

### 【受講しての感想・今後の抱負】

社会福祉士の行動規範となる倫理綱領を改めて確認・理解することができました。社会福祉士としての業務の中で「これでいいのかな!？」と迷うことがあります。そんな時は、自分と倫理綱領を照らし合わせて確認する道しるべにしたいと思っています。引き続き基礎研修Ⅱ・Ⅲを受講させていただき、更なる基礎固めをしていきたいと意気込んでいます。

## 「基礎研修Ⅱを受講して」

窪 田 綾 子（賛育会豊野居宅介護支援事業所）



### 【受講した理由】

私は高齢者分野のケアマネジャーとして勤務し4年になります。最近は介護の問題にとどまらず、多問題を抱える家族の支援も必要になる中で自分の知識・技術のなさを痛感し、もう一度勉強し直す気持ちで受講しました。

### 【研修の様子】

基礎研修Ⅰでご一緒した方がほとんどでしたが、2回の研修では話せなかった方とも今回の基礎研修Ⅱでは、じっくりみっちり仕事の話やレポートについて語らい、学生の頃を思い出しました。研修の中ではグループディスカッションの機会も多く、携わっている仕事による立場の違いなどで自分にはない発想や見方を学びました。一番大きかったのは自分の考え方の傾向を知ることができたことでした。

### 【受講しての感想・今後の抱負】

私が勤務している長野市豊野町は今回台風19号で甚大な被害にあい、職場が被災してしまいました。しかし、多くの人に支えられて少しずつ復興に歩みを進めています。基礎研修の仲間からも心配と励まし、実際にボランティアにも来てくださった方もいて、本当に胸が熱くなりました。これからが復興に向けて、地域の力が試されていると感じています。研修で学んだことを活かして、微力ではありますが地域の復興に尽力していきます。

## 「基礎研修Ⅲを受講して」

森 寿美子（社会福祉法人梓の郷）



### 【受講した理由】

社会福祉士を取得し、止まっていた私ですが、生活相談員として仕事をするようになり、社会福祉士としての役割や専門性ってなんだろう？周囲の人に聞かれても自分の仕事を何と説明したらいいんだろう？という思いを抱え、上司の勧めもあり受講しました。

### 【研修の様子】

権利擁護・地域開発・人材育成など多岐に渡っての講義とグループワークが主でしたが、グループワークでは普段の仕事で関わる機会の少ない分野の方とも意見交換ができ、とても新鮮な気持ちになったのと新たな視点に気づくことができました。約1年の研修を通して、受講生同士の仲も深まり楽しい雰囲気の中で研修を受講することができました。

### 【受講しての感想・今後の抱負】

課題は大変に感じることもあり、日々の実践を振り返るよい機会になったと思います。研修を通じて自己研鑽を積むことの大切さに気付くことができました。

今後は、与えられた場所で与えられた仕事を行うだけでなく、社会福祉士として自らさまざまな事柄に関心を持ち自己研鑽に励むとともに、相談者に寄り添える社会福祉士になっていきたいと思っています。そのためにも日々の仕事の中で少し立ち止まり、自らを振り返る時間を意識できたらいいなと思います。

## 笑顔をつなぐ

～築こう 誰もが安心して暮らせる社会、高めよう社会福祉士の価値と専門性、ともに歩もう 長野県社会福祉士会～

杉本 博志 (中期計画策定推進プロジェクトチーム委員長)

昨年9月より検討、立案をすすめてきた本会の中期ビジョンが、このほど完成しました。メインテーマは「笑顔をつなぐ」。「笑顔」は、この社会の中で、自分らしく安心して暮らしていける一人ひとりの姿をイメージしています。そして私たち社会福祉士および社会福祉士会は、その「笑顔」の輪を広げ、つないでいくために、互いに専門性を高め、一丸となって歩みを進めていこう、という思いを込めています。

また、ビジョンの中では、以下の「4つの価値」という視点を特に強調しています。

- ① 社会福祉士の存在価値…一専門職としての使命達成と自己実現をめざす、社会における根源的な価値
- ② 社会福祉士の会の会員である価値…専門職同士が互いに支え合い、自信と信頼が育める、内部的専門的な価値
- ③ 社会福祉士会を運営する価値…会内そして会員間で、改善と成長に取り組む、組織的創造的な価値
- ④ 社会福祉士の会の存在価値…他のさまざまな層と連携・協働し、社会変革のために行動する社会的価値

これら相互に関連する「4つの価値」を、循環的に高めていく考え方が、今回のビジョンの柱となっています。本ビジョンは、長野県社会福祉士会ホームページで全文を公開しています。皆さん、このビジョンをぜひ一度ご覧ください。社会福祉士の価値を高める良循環が、そこから始まります！

リレーエッセイ～リレー形式の寄稿～

### 「経験不足を補ってもらえる地域がここにある」

高橋 つぐみ (筑北村社会福祉協議会)



「若い！」いろいろなところで言われる言葉だ。職場でもプライベートでも。悪い意味でも良い意味でも。数え年で今年27歳。大学を出てからの4年間、「若い！」と言われるたびに、経験不足と揶揄されている気がして、その都度凹んでしまう私であった。4年目、凹み癖から脱却するため、思い切って発想を転換して「若い！」を楽しんでみることにした。

私は現在、長野県社会福祉協議会から筑北村社会福祉協議会へ「レンタル社会福祉士」として出向している。筑北村の高齢化率は進み、去年の10月には45%を超えた。この村では40、50代も「若い」と言われている。

私からみて人生の大先輩であったとしても、この村では「若い！」の部類に入るのだ。

ある日、「若いところで何か地域の研修を考えてみてくれ」と言われた。経験不足は職場の先輩方に、アイデア不足は地域のじじ、ばば達に補ってもらおうと決めて、地域活動を地域の皆さんに知ってもらうワークショップの企画運営を担当することとなった。先輩方に助けてもらい、次の一歩につながるアイデアや想いもたくさんいただきながら、ふたを開けてみれば発表者や参加者の枠を超えたフラットな研修会になっていた。一人では決してできない地域福祉、たくさんの人と一緒に創っていける、助けてもらえることを実感できたとき、未熟者の承認欲求からちょっとだけ解放された私であった。

\*次号は、飯島町社会福祉協議会 下平 靖恵 さんにバトンタッチします。

### 今後の予定

最新の予定は、本会ホームページ (<http://nacsw.jp>) をご覧ください。

日時(曜日)	事業名・研修名	会場	備考
6月13日(土)	長野県社会福祉士会定時総会	長野県食糧会館	
6月13日(土)	第2回理事会	長野県食糧会館ほか	WEB会議を予定

◎ 入会状況 (令和2年3月末現在) \* 会員数：1,133人 入会率：27.50% 人口10万人あたりの会員数：54.58人

### 編集後記

新年度がスタートしました。今回の特集は昨年度基礎研修を受講された方々より投稿していただきました。社会福祉士の専門性を高めるためには日々勉強…と頭では思いますが、いざ行動に移すのは難しいですね。社会福祉士としてパワーアップできるようにアンテナを張って自己研鑽に励みたいと思います。 (M. S)